

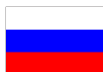
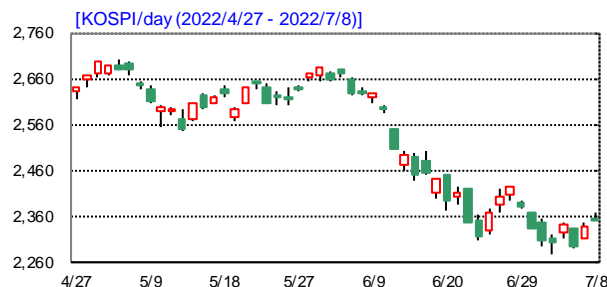


【韓国】 総合指数は週間で2.0%高と5週ぶり反発、今週は2300ポイントで値固め

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.0%高と5週ぶりに反発。週前半は欧米の中央銀行による金融引き締めが警戒されたが、後半は過度な懸念が和らいだ。週明け4日は4営業日続落。米景気の不透明感に加え、中国で新型コロナ防疫策のロックダウン（都市封鎖）が再導入されるとの懸念が浮上した。5日は米国が対中関税の一部緩和を近く発表するとの報道を受けて反発。ただ、6日は反落し、終値が節目の2300ポイントを割り込んだ。景気後退懸念による為替市場の混乱を背景に、韓国ウォンは対米ドルで13年ぶりの安値をつけた。7日はサムスン電子の業績拡大などを材料に反発。8日も上昇し、終値は6月29日以来の高値だった。今週は2300ポイントで値固めか。韓国銀行（中央銀行）が14日に発表する7月の基準金利が注目材料。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は10.3%安と大幅に続落、今週は原油相場をにらんだ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で10.3%安と大幅に続落。ルーブルが対米ドルで20%超の急落となったことが指数を押し下げた。ロシアのシリアノフ財務相がルーブル高を抑制するために通貨介入の可能性に言及し、為替市場でルーブルが急落。対米ドルで前週末の51.50ルーブルから62.40ルーブルに下がり、週間で21.2%の大幅安となった。ただ、年初来では対米ドルで16.3%高と主要通貨の中で上昇率トップを維持している。個別銘柄では、資源のルサルが5.7%高、エネルギーのスルグトネフテガスが3.5%高、ガスプロムが2.9%高と上昇した一方、エネルギーのロスネフチが6.4%安、ノバテックが6.3%安と大きく下げ、資源のノリリスク・ニッケルが2.2%安と下落した。今週は原油やルーブル相場をにらんだ展開か。

▼指数チャート

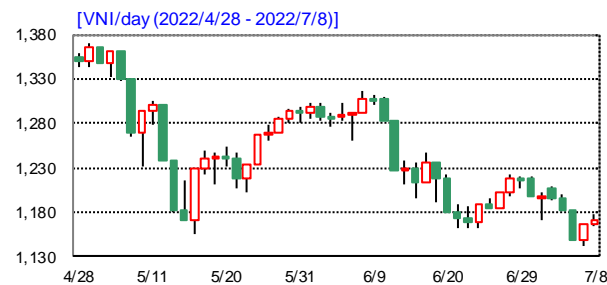


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.3%安と反落、今週は上値の重い展開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.3%安と反落。先安観が強まり、指数は一時、昨年3月以来の安値をつけた。VN 指数は週明け4日に前週末比0.3%安と下落し、5日に1.2%安、6日に2.7%安と大幅に3日続落。先安観が強まり、幅広い銘柄に売りが広がった。週後半は押し目買いで続伸したものの、7日の場中には一時1142.80ポイントと2021年3月26日以来の安値を付けた。8日は1171.31ポイントで引けている。個別銘柄では金融のテクコムバンクが4.3%高、SSI証券が3.6%高となった一方、エネルギーのペトロベトナム・ガスが13.1%安、PC・携帯電話販売のモバイル・ワールドが7.5%安、ゴム製品のベトナム・ラバー・グループが6.2%安、公益のペトロベトナム電力総社が4.4%安となった。今週は上値の重い展開か。

▼指数チャート



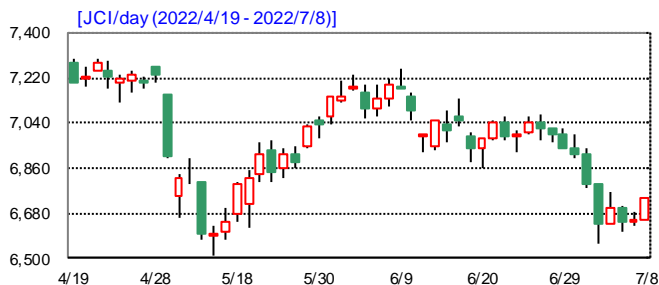


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.8%安、景気後退懸念の広がりを嫌気

ジャカルタ総合指数は週間で 0.8%安と続落。週末の上昇が週の下げ幅を縮めた。週初の4日は前週から下げ止まらず、前営業日比 2.3%安と6日続落。5日は金融株と資源株が指数上昇をけん引し、前日比 1.0%高と反発したが、6日は景気後退懸念が強まった影響で売り優勢となった。週後半は7日に小幅反発した後、8日は前日の NY ダウが積極的な利上げに対する警戒感がやや後退した効果で上昇した流れを引き継ぎ、前日比 1.3%高と続伸して取引を終えている。今週は11日の5月の小売売上高に続き、15日には6月の貿易統計が発表される予定。外部要因では米国の6月のCPIが株式相場を左右しそうだ。

▼指数チャート

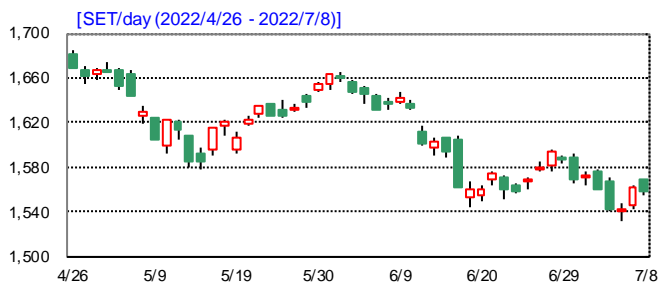


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.9%安、6月のCPI上昇率は前年同月比 7.7%と高止まり

SET 指数は週間で 0.9%安と3週ぶりに反落。インフレの加速が指数下落を主導した。週初の4日は、景気後退懸念の広がりや中国の新型コロナウイルスの感染者数増加が嫌気されて反落。5日は6月のCPI上昇率がエネルギー価格の高騰を受けて前年同月比 7.7%と市場予想から上振れした影響で、指数は前日比 1.2%安と続落し、年初来の安値を更新した。6日は前日からほぼ横ばいで推移した後、7日は原油価格の下落を受けて小売株が買われ、指数は前日比 1.3%高と続伸したが、8日は3日ぶりに反落している。今週は中国の経済指標などの外部要因が焦点。13日はアサラハブーチャ（三宝祭）のため休場となる。

▼指数チャート

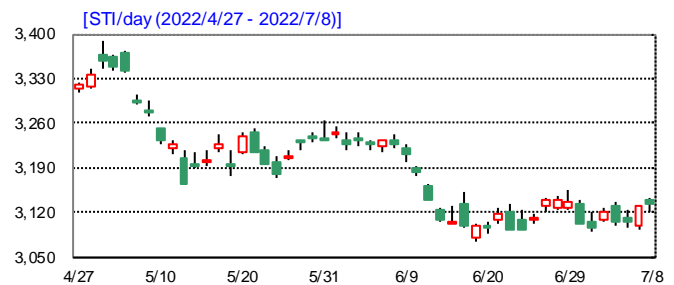


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.2%高、今週は14日に4-6月期のGDP速報値発表

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.2%高と反発。終値で終始 3100 ポイント台を維持した。週初の4日は銀行大手3行が買われ、指数は4営業日ぶりに反発。一方、5日は5月の小売売上高が前年同月比 17.8%増と高い伸びを示したものの効果は薄く反落すると、6日は中国での新型コロナウイルスの感染再拡大が嫌気されて小幅に続落した。ただ、7日は原油価格の下落が買い材料となり、3日ぶりに反発。8日は前日からほぼ横ばいで取引を終えた。今週は14日に4-6月期のGDP速報値が発表される予定で、市場予想から上振れすれば株式相場の追い風か。11日はハリラヤハジ（聖地巡礼祭）のため休場となる。

▼指数チャート

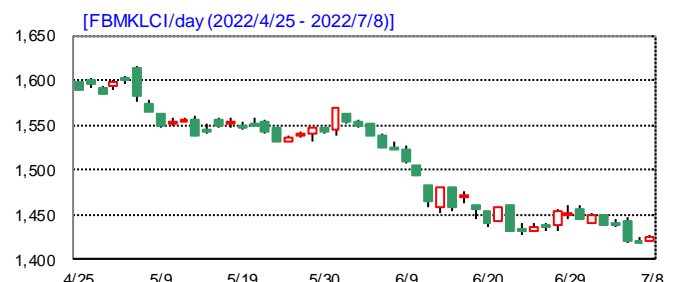


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.7%安、中央銀行が2会合連続の利上げを決定

クアラルンプール総合指数は週間で 1.7%安と反落。不安定な値動きが続いた。週初の4日は引け際に売られて反落したが、5日は安値拾いの買いが入り反発。6日は中央銀行が2会合連続の利上げを決定し、金融株の一角が買われたものの、プランテーションとエネルギー株の利益確定売りが響き、指数は前日比 1.4%安と反落した。7日に小幅続落した後、8日は中国が景気対策を検討していると報じられたことを受けて世界経済の後退懸念がやや和らぎ、前日の NY ダウが上昇した流れで反発して引けている。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因が指数を左右しそうだ。11日はハリラヤハジのため休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。